

菊地啓

小さくひろい闇のなか

届かぬ手は切なく、行くことのかなわぬ心は悲しい
すきとおって暗く、やわらかく冷たい布団の中でまるくなる。

ふかく息を吸えば鼻腔をくすぐる陽の匂い。
それは、こちらをそっと見る小春日和の光そのもの。

冷たい布団の中に冬の陽
暗い布団の中に冬の陽の光。
目をつむれば、見える。

冷たい切なさにも、きつと
暗い悲しみにも、きつと。